

学科 ライフスタイル学科	氏名 山口佐和子
<p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p>	

1 教育の責任

私は家政学部ライフスタイル学科の教員として2026年3月の時点で2年間教鞭を振ってきた。その中で、2025年度はオムニバス科目を含めて合計13科目を担当した。以下の一覧表のうち、「家族論」は、保育士、中学校教諭一種(家庭科)、高等学校教諭一種(家庭科)の資格と関連する(添付資料1)。

その他、就職委員、ハラスメント委員、オープンキャンパス模擬授業(添付資料2)、オープンキャンパス大学相談、学外(大府市)プロジェクト(添付資料3)、学生募集のための高校訪問、入試問題作成、入試面接、入試採点、1年生担任業務、学外講座(添付資料4)を行った。

科目名	学科	開講期	受講者数	備考
家族論	共通	3年前期(2025)	164	
キャリア形成特別講座Ⅰ	ライフスタイル	1年前期(2025)	17	オムニバス
社会学	共通	3年後期(2025)	112	
ジェンダー論	ライフスタイル	4年後期(2025)	15	
スタジオC	ライフスタイル	3年通年(2025)	5	
スタジオ入門	ライフスタイル	2年後期(2025)	5	
生活スタジオ入門	ライフスタイル	1年後期(2025)	1	
卒業研究	ライフスタイル	4年通年(2025)	5	オムニバス
地域の暮らしと生産	ライフスタイル	1年後期(2025)	43	オムニバス
地域ブランド論	ライフスタイル	2年前期(2025)	29	
ライフスタイル学演習Ⅲ	ライフスタイル	2年前期(2025)	38	オムニバス
ライフスタイル学基礎講座	ライフスタイル	1年前期(2025)	34	オムニバス
リサーチリテラシー	ライフスタイル	1年前期(2025)	37	
流行論	ライフスタイル	2年前期(2025)	26	

2 教育の理念と目的

自分にとっての「教育の信念」は、「いつかどこかで必ず役立つ知識と理論」を人生の先輩として学生たちに伝えよう！というものである。これは、多くの困難が存在する社会でサバイブできるフレキシブルな人間に育ってほしいという強い願いをバックグラウンドとしている。また、このような信念の具現化には、学生ひとりひとりに寄り添い、信頼される教員であることが前提条件となる。「教育の価値」は、数値化できるものではなく、その良し悪しは、いかにひとりひとりの学生に合ったオーダーメイドのコーチングができるかということにかかっている。「教育の価値」は、とっさに答えを導き出す人間を育成するのではなく、一度立ち止まってものごとを考えることのできる人間を育成することにあると考える。そのために「目指す教育」は、「生きて行くよすがとなる知・理論を獲得させる」ことは言うまでもなく、「学んだことが深く社会と関連し、多くが実践的学問であることを理解する」、「考えることにつながるデータリテラシーを向上させる」、「自分で立ち止まって考えることを大切にする」、「生涯学び続ける意欲を育てる＝学ぶことは即ち楽しみである」ことを体得させ、学生のコミュニケーション能力をも向上させつつ、教員が社会人としてのルールを示すことである。

3 教育方法

上記の教育理念と目的を踏まえ、自分の教育方針として、①教員への信頼醸成、②基礎知識（あるいは理論）を身に付けさせる、③学問が現実社会とつながっていることを理解させる、④データリテラシーを身に付けさせる、⑤自分で考える習慣をつける、⑥「学ぶことは楽しい」を体感させる、⑦コミュニケーション能力を向上させる、⑧社会人としての規範を示す、をあげる。これら①～⑧の教育方針に沿う具体的な教育方法として、以下の事柄を実践している。

①教員への信頼醸成

↑

- ・学生一人一人の良さを認める発言をする。
- ・学生の授業中の様子を観察しつつ授業を進める。
- ・授業内容に限らず幅広く相談にのる。
- ・授業の感想あるいは悩み等何でも良いので受講カードの裏に書いてもらう。

②基礎知識（あるいは理論）を身に付けさせる。

↑

- ・事前確認テスト、事後確認テストを行う（添付資料5）。
- ・授業の最後に質問時間を設ける。
- ・質問を受講者カードの裏に書いてもらう。

③学問が現実社会とつながっていることを理解させる。

↑

- ・現場で働く人をゲストスピーカーとして招く（添付資料6）。
- ・授業に関連する新聞記事やNHKなどのウェブニュースを毎授業の教材にする（添付資料7）。

④データリテラシーを身に付けさせる。

↑

- ・国や国際機関のデータを多用する（添付資料8）。

⑤自分で考える習慣をつける。

↑

- ・新聞記事を読んで、自分なりの考えをまとめてレポートを書かせる。
- ・学外の当該授業に関連するオンライン講演会を聴講させる（添付資料 9）。
- ・教員の用意した新聞記事スクラップファイルから、自分の興味のある記事を選択させ読ませる（添付資料 10）。

⑥学ぶことは楽しいを体感させる。⇔生涯学び続ける意欲を育てる。

↑

- ・資料を視覚的に見やすく美しくする（添付資料 11）。
- ・授業内容にかかわる音楽や映画を視聴させる（添付資料 12）。
- ・適切な余談を取り入れる。

⑦コミュニケーション能力を向上させる。

↑

- ・グループワークをさせる（添付資料 13）。

⑧社会人としての規範を示す。

↑

- ・授業開始時刻と終了時刻を守る。
- ・授業シラバスを頻繁に見返し、修正が必要な場合は修正する。

4 授業改善の活動

授業評価アンケートを活用し、授業改善を行っている。自由記述欄に着目し、学生の的確な意見はすぐに取り入れるようにしている。さらに、毎回受講カードの裏に意見を書いてもらっており、その際、的確な意見があった場合は翌週にフィードバックし直ちに改善する。科目によっては、教員独自のアンケートを学生に実施し、授業改善に役立てている。また、評価の際のループリックは頻繁に見返し、より良いものを探求し続けている。くわえて、生成 AI（notebook lm）を多用し、選択問題および論述問題を数多く作り、その中から適切な良い問題を選び、学生の学修理解度のチェックに役立てている。また、生成 AI（notebook lm）を使用し、マインドマップやインフォグラフィックの機能を活用し、学生の新たな学修方法を提案している。

5 学生の授業評価

2025 年度後期の評価は添付資料のとおりであった（添付資料 14）。そのなかで、「ジェンダー論」においては、教員に関する設問の平均は 5 点満点中 4.3 点であった。総合的な学生満足度は約 8 割であった。とくにポイントが高かったのは、「教員は熱意や意欲を持って授業に取り組んでいた」という項目であった。「地域の暮らしと生産」では、教員に関する設問の平均は 4.4 点であった。総合的な満足度は約 8 割であった。とくにポイントが高かったのは、「学生が積極的に取り組める工夫があった」、「教員の話し方が聴き取りやすかった」、「教員は学生の理解度を確認していた」、「教員は熱意や意欲を持って授業に取り組んでいた」、「この授業で学修への興味や意欲を膨らませることができた」という項目であった。自由記述においては「人生的にとってもためになる授業だった」「自分のやりたいことがわかった」、「受講して良かった」という意見が見られた。「社会学」においては、教員に関する設問の平均は 4.2 点であった。総合的な満足度は約 8 割であった。とくにポイントが高かったのは、「教員は熱意や意欲を持って授業に取り組んでいた」という項目であった。自由記述においては、「学生の悩みに親身になって答えてくれて嬉しかった」というものがあった。「卒業研究」においては、教員に関する設問の平均は 4.7 点であった。総合的な満足度は 100%であった。「スタジオ C」においては、教員に関する設問の平

均は 4.4 点であった。総合的な満足度は 100%であった。学生に関する全設問の平均は上記すべての科目において平均 4 点以上であった。しかしながら、学生の事前事後学習の時間については、上記の内 3 科目において 1 時間未満の学生が半数以上あった。

6 学生の学修成果

学修成果については、「ジェンダー論」に置いて、独自に自由記述方式のアンケート調査を実施した。このアンケート結果から、以下の点を学修成果としてあげることができる（添付資料 15）。

①学生は、ジェンダー論の成り立ちおよびジェンダーに関わる社会問題や関係する法律について知識を得た。

（例）・「これまで当たり前だと思っていた「男らしさ」「女らしさ」が、歴史や社会構造、メディアや教育を通して形成されてきたものであると知り、性別による役割分担は決して自然なものではないという知識を得た。」

・「ジェンダー問題として、教育・家族・貧困など、多くの知識をつけることができた。」

・「ジェンダーに関わる法律の知識を得た。」

・「無意識の思い込み（ジェンダー・バイアス）が、進路選択や役割分担、評価の場面など、日常のさまざまな場面に影響している事実を知識として得た。」

②学生は、学問が現実社会とつながっていることを理解し、自分で深く考えることができるようになった。

（例）・「新聞記事や、文章など筆者の主張を正確に読み取ることができた。」

・「新聞記事を読む中で、複数の視点から考えるようになった。」

・「情報の背景や異なる立場を意識しながら読む読解力が身についた。」

・「文献や資料を読む際、＜誰の立場から書かれているのか＞、＜前提となっている価値観は何か＞といった視点で読むようになった。」

③学生は、コミュニケーション能力を向上させた。

（例）・「グループワーク時は、率先して意見を言い、同時に他の学生も意見を言いやすい雰囲気作りに貢献できた。」

・「気づいたことや考えたことを授業内で発言したり、出席確認の紙の裏に書いたりした。」

④学生は、データリテラシーとその活用方法を身に付けた。

（例）・「感情的な判断ではなく、社会的背景やデータを基に考える力が養われた。」

・「自分の意見を持ちながらも、他者の考えを尊重し、根拠を示して説明することを意識するようになった。」

⑤学生は、学ぶことを楽しいと実感し、自ら学び続ける意欲を持つことができた。

（例）・「卒業論文などの内容や意欲にも繋がった。」

・「外部講師の話聞き、DV や性的被害について深く考えさせられ、強い関心を持って授業に参加するようになった。」

・「ネットニュースやテレビ、雑誌でジェンダーに関する話題を目にしたら、読んだり調べたりするようになった。」

・「自分自身の生活や将来の職場である教育現場とも深く関わるのが気づき、学習意欲が高まった。」

7 授業科目に関連した教材開発

これまで授業科目のテキストとして以下の本（共著）を執筆した。

・『女性学入門－ジェンダーで社会と人生を考える』ミネルヴァ書房、2010 年

・『子ども家庭のウェルビーイング』金方堂、2011 年

・『教養としてのジェンダーと平和』法律文化社、2016 年

・『女性学入門 改訂版－ジェンダーで社会と人生を考える』ミネルヴァ書房、2018 年

・『教養としてのジェンダーと平和 II』法律文化社、2022 年

・『比較福祉社会学の展開－ケアとジェンダーの視点から』新評論、2024 年

8 指導力向上のための取り組み

愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会に参加し、教育改善の方策のヒントとして、notebook lm の授業における活用方法をいくつか学んだ（添付資料 16）。また、大学における教育実践に関する研究論文を複数本読んだ（添付資料 17）。くわえて、授業内容に関わる社会の情報もたえず収集し、指導力向上に努めた。

9 今後の目標

今後の目標は以下の四点にまとめることができる。

- ① 学生の信頼を得ることのできる教員になれるように日々自分を見つめ精進する。
ex. 学生の相談を記録する。授業評価アンケートを分析する。
- ② 人生を生き抜く力として必要な事柄を教える授業作りを心掛ける。
ex. 学生に独自のアンケートを実施する。授業案を見直す頻度を上げる。授業内容を興味・関心の持てるものにする。教育実践について日頃から文にまとめる。
- ③ 国内外問わず、有益な教育実践をさらに探し実践につなげる。
ex. 研究論文や本あるいはニュース記事・雑誌記事に、適切な教育実践報告がないか常日頃注視し、可能なものを見つけた場合は実践に移す。notebook lm を有効活用し教育実践に役立てる。
- ④ 学生の事前事後学習時間をのばす。
ex. 学生に自学の大切さを、様々なツールを用いて認識させる。

10 添付資料

添付資料 1「シラバス」、添付資料 2「模擬授業資料」、添付資料 3「大府市イベントチラシ」、添付資料 4「学外講座資料」、添付資料 5「事前事後確認テスト」、添付資料 6「ゲスト資料」、添付資料 7「新聞記事」、添付資料 8「授業資料 1」、添付資料 9「授業資料 2」、添付資料 10「新聞記事スクラップファイル」、添付資料 11「授業資料 3」添付資料 12「授業資料 4」添付資料 13「グループワークメモ」、添付資料 14「授業評価アンケート結果」、添付資料 15「ジェンダー論受講者アンケート」、添付資料 16「研修会資料」、添付資料 17「論文：長岡由紀子他<基礎学力に関する大学生の意識調査と学習支援におけるピア・サポート活動>、亀島信也他<認知学習理論を応用した大学生の学力向上プログラム>、杉本亜由美<初年次教育における能動的学修の効果>等」